



校長室だより

岡山県健康の森学園支援学校

令和7年 6月 9日発行

「目には青葉 山ほととぎす 初がつお」と初夏の季節感を表した句がありますが、♪テッペンカケタカ♪とほととぎすの鳴き声が聞こえてくるようになりました。季節の移り変わりを五感で感じることでできる健康の森学園です。

地域とのつながり 学園内連携

地域の方とともに田植え祭りをしました



5月23日（金）、快晴で5月の爽やかな風が吹く、田植え日和となりました。健康の森学園恒例の田植え祭りが開催され、みんなで「あきたこまち」の苗を手植えしました。地域の方、交流を行っている学校・福祉施設の方、保護者の方をお招きし、小学部・中学部・高等部・施設の園生・職員の学園全員で田植えをしました。

小学部1年生は初めて田んぼに入りますが、泥の感触を楽しみながら、先生・保護者の方と一緒に一株ずつ植えていきました（写真左）。中学部になると、初めは先生と苗の取り方など確認したりしていましたが、自分で手綱の印を確認しながら植えていました（写真中）。高等部では、隣の人の進み具合も見ながら、手綱係りのかけ声に合わせて、植えては下がり、植えては下がりして、たくさんの苗を植えることができました（写真右）。

みんなで植えた「あきたこまち」は、秋に収穫すると給食のご飯としていただきます。また、他の田んぼに植えたもち米でつくおもちも、10月の『収穫祭と作品展』で販売します。『収穫祭と作品展』にもたくさんの地域の方、交流校ほか多くのお客様にきていただき、楽しんでいただけるよう生産物の栽培や手工芸品等の製作に園生・職員で励んでいます。

学校・寄宿舎 24時間教育

毎日2回 児童生徒の情報交換をしています

今年度、全校児童生徒60名のうち53名が寄宿舎生です。ほぼ9割が寄宿舎生なので、毎日登校時と下校時に寄宿舎生一人一人の健康状態や生活上の課題などについて、学校と寄宿舎の担当が情報交換を行っています。調子が悪いときには、情報を引き継ぎ、その後の学習や生活の指導や支援に活かしていきます。担当だけでは対応が難しい課題があがってきたときには、学校・寄宿舎のコーディネーターを窓口到校内ケース会議を開きます。さらに大きな課題のときには、医寮・福祉・行政等の関係機関の方にも連絡を取り、拡大ケース会議を開き、解決方法を考えていきます。月曜日から金曜日まで、24時間一人一人をしっかりと見て指導・支援を行っています。

